

# 現代に息吹く

## 歴史文化遺産を活用したまちづくり

市では、「ふるさと舞鶴」が有する歴史文化遺産を、地域のタカラモノとして育み、市民が誇りを感じる心豊かな社会を形成するため、歴史・文化遺産を活用したまちづくりを進めています。シリーズ市政の「今」。第40回は、先人たちが守り伝えてきた貴重な歴史文化遺産の保存・継承と新たな活用の取り組みについてお知らせします。



### 郷土の豊かな歴史と文化を紹介

「このまちを誇りに思い、愛着が感じられる文化都市」の実現に向け、昨年7月、郷土資料館「舞鶴ふるさと発見館」は、機能強化を図る西総合会館の1階にリニューアルオープンしました。同館は、貴重な歴史・民俗・考古資料の実物の展示や祭礼・年中行事を視聴できる映像端末の設置など分かりやすい展示に努め、市民の皆さんをはじめ、市外からの来訪者へも舞鶴市が誇る豊かな歴史と文化を紹介しています。また、地域学習にも利用できるサロンスペースを整備し、利用者に配慮した空間を創出。今後も先人たちが築き上げてきた生活の痕跡を大切な文化財として次世代へ引き継いでいきます。

### 文化財を「地域の宝・誇り」として育むために

市では、市民文化の向上、文化の進歩に貢献するため、舞鶴市にとって重要な文化財を保存・活用する保護制度を、国や府が実施する制度と併せて定めています。本市の有形・無形の文化財を市が指定することで、文化財所有者の義務や責任を明確にするとともに、多額の経費を要する管理や修理には、所有者の負担を軽減するための助成を行っています。

舞鶴市指定文化財の件数は、建造物や絵画などの美術工芸品、民俗文化財、天然記念物など108件（平成28年4月1日現在）。本年2月28日には、明倫小学校正門・舞鶴幼稚園資料・朝代神社祭礼平野屋太神楽関係

用具の3件を新たに指定しました。本市には、国指定・登録文化財38件と府指定・登録文化財40件と併せ、市全域に多くの文化財が点在しており、かけがえないこれら文化財を全市民の財産として保護しています。

### 引き揚げとシベリア抑留の史実を世界へ、未来へ

引揚記念館は、平成27年9月にリニューアルオープンし、同年10月のユネスコ世界記憶遺産の登録も相まって、平成27年度には入館者が約13万2千人と、市直営となった平成24年度の約6万9千人から約2倍に増加。また、昭和63年の開館以来の通算入館者数が、平成28年10月には400万人を超えたところです。引き続き、若い世代も当時の過酷な労苦を実感できる空間



▲リニューアルした郷土資料館「舞鶴ふるさと発見館」



▲新たに市の文化財に指定された「明倫小学校正門」

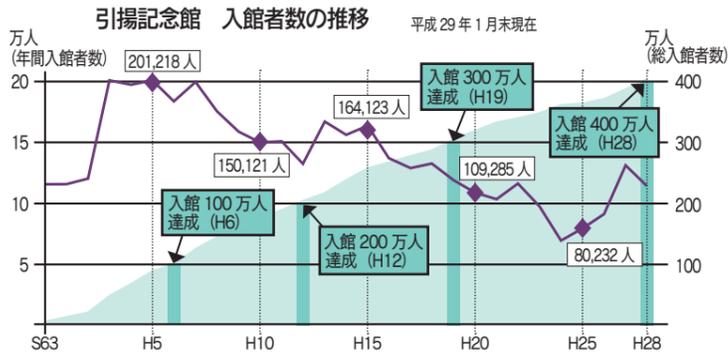
展示スペース「抑留生活体験室」の整備や約1,300点の所蔵絵画を活用する「企画（絵画）展示室」と「収蔵庫」を増築する2期工事の着手を目指していきます。

また、史実の継承事業として、平成31年度に京都市で開催予定のICOM（国際博物館会議）

の分科会（国際委員会）などの関連事業や平和学習として全国から教育旅行の誘致活動などに積極的に取り組み、引き揚げとシベリア抑留の史実を世界、そして未来へと継承する国際的・学術的な拠点施設としての役割を担っていきます。



▲第2期整備工事の抑留生活体験室のイメージ



▲引揚記念館の入館者が400万人を達成（昨年10月13日）



▲世界記憶遺産登録1周年記念フォーラムを開催（昨年10月15日）

### 引揚記念館のブランド力強化

「ユネスコ世界記憶遺産」登録1周年を記念した記憶遺産フォーラムを商工観光センターで昨年10月に開催。小・中学生、高校生らが合唱や紙芝居を上演するなど市民ら約330人が参加し、引き揚げの歴史を後世へ伝える思いを新たにしました。

さらに引揚記念館全国巡回展「引き揚げの記憶と平和への願いを世界へ！未来へ！」を本市と同じ旧引揚港である横須賀市と呉市で開催。3月18日(土)からは、佐世保市でも開催する予定です。また、国際的な文化交流

や発展に向け、海外での資料調査も実施しています。市では、今後も引き揚げ事業に携わったまちの使命として恒久平和の願いを広く発信していきます（11ページに関連記事）。

### 歴史文化基本構想の策定

海と深い関わりをもつて古代から発展してきた舞鶴市。田辺城や西地区の城下町のまち並みをはじめ、海軍鎮守府開庁に伴い整備された赤れんが倉庫群や造船・水道・鉄道などの近代インフラ遺産が今も残っています。また、吉原の太刀振や城屋の揚松明、小橋の精霊船行事な



▲舞鶴市歴史文化基本構想による新たなまちづくりの指針



▲旧軍港市（横須賀・呉・佐世保・舞鶴）で連携

どの特徴ある祭礼芸能や伝統行事も引き継がれています。市では、これら誇るべき歴史文化遺産を総合的に保存・活用し、これらを活かしたまちづくりを推進するため、「舞鶴市歴史文化基本構想」を策定する取り組みを進めています。「歴史文化の魅力を探り、学び、活かす」を基本理念とした新たなまちづくりの指針となる「舞鶴モデル」を創造していきます。

### 日本遺産プロモーション事業

旧軍港四市で申請した「日本近代化の躍動を体感できる歴史ストーリー 横須賀・呉・佐世保・舞鶴」が昨年4月に日本遺

産に認定されました。この「旧軍港四市」という全国唯一のブランドを活かし、日本遺産構成文化財のさらなる魅力の発信に四市が連携して取り組んでいます。認定から2年目を迎える平成29年度は、四市が共同して設立した旧軍港市日本遺産活用推進協議会が中心となり、「連携交流・人材育成」をテーマに、観光ガイドの交流やスタンプラリーの実施など、四市が連携したプロモーション事業を実施予定。また、構成文化財に施設概要を付した四市統一デザインの家内標識（公共サイン）などの設置も計画しています。